

都民の願い 実現できるのは鳥越さん

対決点くっきり

しんぶん赤旗 2016年7月22日(金)

野党統一候補の鳥越俊太郎氏が前自民党衆院議員の小池百合子氏や自民・公明推薦の増田寛也氏と激しく争う東京都知事選（31日投票）。憲法を守り都政に生かすことをはじめ対決点が浮き彫りとなっています。

■憲法守り生かす

「東京都が憲法を守るんだという旗を立てて、東京から日本中に憲法を守る波を届けていきたい」

こう訴えているのが鳥越氏。衆参両院で改憲勢力が3分の2議席を占めたもとの、憲法を守り生かす知事か、安倍晋三首相と一緒に憲法を壊す知事かが大きな争点です。

鳥越氏は、安倍政権を「戦後最悪の内閣」と批判。安保法制＝戦争法について「憲法9条が骨抜きにされ、戦後守ってきた平和の枠組みが壊れる。見過ごせない」と力を込めます。

これに対し、憲法9条を壊す自民党の改憲案を推進するのが小池氏。改憲派「日本会議国会議員懇談会」で副幹事長を務め、核武装を検討すべきとまでいっています。

増田氏も自公に推され、改憲議論を容認しています。

■政治とカネ

「政治とカネ」の問題にメスを入れ、クリーンな都政に切り替えることは、今回の知事選の原点です。

辞任した舛添要一前知事を担いだ自民、公明は都民に謝罪すべきです。

ところが、小池氏は「舛添氏推薦は」上のほうで決められた」と言い訳。しかし、小池氏の公式サイトには、舛添氏に政策要望する自身の写真や、「都連都知事選対幹部会」（14年2月）、「舛添都知事候補選挙事務所開き」（同1月）の参加が明記されています。

増田氏は、自公に推されながら「混乱に終止符」と述べ、まるで人ごとです。

鳥越氏は「都政は都民が汗水たらして働いた税金で成り立っています。『納税者意識』を胸にとめ、都民の負託に応えます」と表明しています。

■暮らし・福祉

オリンピックに名を借りた大型開発優先から、都民の暮らしを守る都政に切り替えることも大きな争点です。

舛添都政も「待機児解消」を掲げながらできなかったのは、幹線道路整備に2200億円など大型開発を優先して、保育園建設や保育士確保に十分な予算を回さないからです。

鳥越氏は「公共事業で経済をよくするやり方はやめて、高齢化対策や待機児童、介護な



（写真）支持を訴える鳥越俊太郎都知事候補（中央）と、応援の小池晃書記局長（右端）、長妻昭民進党代表代行（左端）＝16日、東京都足立区

どの問題にお金を使って経済を活性化させる」と表明しています。

小池、増田両氏ともに安倍内閣の成長戦略を支え大型開発推進の自公都政を継承する立場は同じです。

小池氏は、「待機児解消」の名で保育所の広さ制限を緩和し、「詰め込み」を主張。年齢制限も緩和し、3歳になっても認可保育所に転園させず、狭い保育所に押し込める考えです。

増田氏は、実際の待機児は2万人以上もいるのに、整備計画の対象は8千人だけ。「バス送迎で広域保育」と主張し、離れた郊外の町村に通わせるという非現実的な政策です。

これに対して鳥越氏は「潜在的に2万人ともいわれる待機児童に見合った施設を整備しなければならない」と主張。保育士の待遇も「全産業平均より10万円も給与が安い。行政が手当とする」と訴えています。

都知事選の争点で、各候補の言動・政策は

	鳥越俊太郎氏	小池百合子氏	増田寛也氏
憲法・安法制	「東京は憲法と平和を守る」。「非核平和都市」を宣言。「安倍政権は戦後最悪の内閣。(改憲ねらう)流れを断ち切る」	「現行憲法は廃止する」が特論。改憲団体・日本会議の国会議員懇談会副幹事長。核武装も「検討すべき」(03年「毎日」)	改憲草案を掲げる自民、「加憲」の公明が支援。「改憲規定があるわけで、その中で十分議論を」と改憲を容認
政治とカネ	「納税者意識」を胸にとめ、税金のムダを削り、都民の負担に代える」	自民党都連として舛添、猪瀬両氏を推す。舛添氏に直接、政策提言	不祥事に責任がある自公に差されながら「暴乱に終止符」とまるで人ごと
子育て・介護	大型開発優先の流れを変えて、保育所や介護施設の整備、保育士・介護士の給与・待遇改善	保育所の「広さ制限、年齢制限を緩和」、子どもの「詰め込み」で、安倍政権と同じ	実際の待機児は2万人超もいるのに、整備計画は8千人。「バス送迎で広域保育」を主張。保育士の給与改善はなし
築地市場移転	(移転先の)土壌汚染などについて精査し、問題があれば中断	「環境」をアピールするのに土壌汚染にもふれず移転を容認	移転強行の自民、公明に推される推進派
オリンピック	「利権まみれ、カネまみれではいけない」「コンパクトでシンプルな五輪」	公約チラシでは「利権追及チーム」が消え、「予算・運営の適正化」に	「精査し、負担を軽減」というが、勝手を推進した自公に推されている
原発	「原発は人間の手に負えない。できるだけ早く廃炉依存をやめる」。「非核平和都市」を宣言	「すべての原発が危険ではなく、どの原発が安全か説明すべきだ」(12年5月、東京ヘッドライン)	8日まで東電の社外取締役。「安全性が確認された原発は動かす」「新増設やリプレース(建て替え)を入れるべき」
オスプレイ配備	「はっきり反対。墜落したらどんな災害になるか」	「防災の観点からオスプレイは受け入れられるべき」	自公はオスプレイ配備推進
カジノ	「反対。生活を破壊される悲劇は見たくありません」	「統合型リゾートという発想はあり」とカジノ推進	「東京が先頭を走る必要はない」というものの容認
暮らし	「大型公共事業にお金をかける時代は終わった」「待機児童、介護などの問題にお金を使って経済を活性化させる」	「アベノミクスの成長戦略を東京で実現する」。財界が求める「アジア1の国際金融都市」を主張	「国の成長戦略と連携」と大企業応援の安倍内閣と一体化。若手県知事時代は大型開発で借金を2倍に

“憲法停止”で共鳴

小池百合子氏と石原知事（2000年）

首相には「緊急事態条項」の手順伝授

2016年7月22日(金)

東京都知事選（31日投票）に立候補した小池百合子元防衛相が、現行憲法の効力「停止」や「廃止」を主張し、国民の基本的な人権を制限する「緊急事態条項」創設の手順まで政府に“伝授”していたことが、衆院の会議録でわかりました。

2000年11月30日の衆院憲法調査会で、当時保守党所属議員だった小池氏は、参考人の石原慎太郎東京都知事（当時）が現行憲法を「歴史的に否定すること」こそ国会がすべきことだと主張したのに呼応し、「結論から申し上げます、いったん現行の憲法を停止する、廃止する、その上で新しいものをつくっていく」ことに「基本的に賛同する」と表

明しました。

その後、自民党に移った小池氏は、民主党政権時の12年7月9日の衆院予算委員会で、当時の野田佳彦首相に、「国防軍」保持や「緊急事態条項」創設を盛り込んだ自民党改憲草案の「丸のみ」を要求。

15年2月19日の同委で小池氏は、「緊急事態」に関する改憲について安倍晋三首相の「イメージ」を質問。首相は、改憲原案は国会が発議するもので、党総裁として「最終的に判断する」と答弁するにとどまりました。

これに対し小池氏は「(緊急事態についての改憲は)83条、財政の条項からまずやってみたらどうか」と発言。国民投票法＝改憲手続き法は整ったばかりで、国民は一度も改憲の投票をしたこともないとして、「いきなり“全部のメニューを最初から”というよりも、(国会の改憲発議要件を定める)96条よりも、私は83条から始めるべきではないかと思っている」と提案しました。小池氏の狙いは、「非常事態」時の財政上の憲法規定の見直しを“入り口”として、国民の警戒感を和らげ、その後「全部のメニュー」＝本格的改憲につなげようという国民だましの手法にほかなりません。

大企業より福祉と生活

鳥越候補訴え “困っている人に予算を”

都知事選

2016年7月22日(金)

東京都知事選(31日投開票)で、野党統一候補の鳥越俊太郎氏は21日、東京・JR中野駅北口で街頭演説し、税金の使い方を福祉・暮らし優先に切り替えて、経済を立て直すビジョンを示しました。

鳥越氏は演説で、アベノミクスについて「物をどんどん売って、(大企業が)もうかれればそれで日本の国は成り立っていくという幻想を振りまいているだけだ」と批判。大企業をもうけさせるための公共事業優先の税金の使い方から発想を変えて「一番、いま困っている人、保育園を必要としている人、介護のベッドを必要としている人などにお金が回ること、経済が回っていく、新しい形の経済と仕組みを考えなければならない」と訴えました。

この日、江戸川区の特別養護老人ホームを視察して駆けつけた鳥越氏は、介護専門職の給与が全産業と比べ10万円も低いことを指摘。高齢者や介護士が「敬意を払われて生きていけるような社会を目指さなければいけない」と強調しました。

日本共産党の田村智子副委員長と、民進党の長妻昭代表代行が応援演説に立ちました。



(写真) 訴える鳥越都知事候補＝21日、東京・中野駅前

学者もママも労働者も

多彩な市民が鳥越さん応援

2016年7月22日(金)

有力3候補が「横一線」で激しく争う東京都知事選（31日投票）で、野党統一候補の鳥越俊太郎候補を勝利へ押し上げようと21日、学者、子育て中の母親、労働者らが都内各地で応援演説に立ち「鳥越さんで都政を都民の手に取り戻そう」と訴えました。雨の中、弁士の訴えに足を止めて聞く人が多くみられました。

久米川駅前（東村山市）では東京大学名誉教授で市民連合の広渡清吾氏が演説。都民の願いは「税金を自分のために使わない、都民のくらしと健康を第一に考えて環境づくりし、憲法9条の平和主義を東京から発信する知事の誕生だ」と指摘。「これに応える候補者は、ジャーナリストとして権力に屈せず市民とともにたたかう鳥越さんしかいない」と訴えました。

小平駅前（小平市）では「安保関連法に反対するママの会@国分寺」の小柳英梨子氏が、認可保育園や特別養護老人ホームの増設、最低賃金のアップを都政に要望。「鳥越さんには聞く耳がある。みんなの『困った』を鳥越さんに集め『住んでよし、働いてよし、環境によし、学んでよし』の東京を実現しよう」と呼びかけました。

野方駅前（中野区）では、全労連議長の小田川義和氏が「憲法を生かす東京に。鳥越さんとともに、日本が『戦争する国』に逆戻りするのを止めよう」と訴えました。さらに非正規雇用の増加やブラック企業が横行する労働問題にも言及。「最低賃金の引き上げ、ブラック企業規制のルールづくりを東京都が行うように、鳥越さんに思いを託したい」と語りました。

小平駅前で演説を聞いた女性＝同市＝は「道路などでなく医療、福祉、教育の予算を増やす都政であってほしい。ジャーナリストとして正義感を発揮してきた鳥越さんを知事に押し上げたい」と話していました。

街頭宣伝には、日本共産党、民進党、社民党、生活の党、生活者ネットの国会議員や地方議員らもマイクを握りました。



（写真）鳥越知事候補への支援を訴える（右から）広渡清吾氏、宮本徹・日本共産党衆院議員、柿沢未途・民進党衆院議員、喜入肇・東京自治労連書記長、尾崎あや子・日本共産党都議＝21日、東京・東村山市久米川駅前

鳥越氏勝利へ 保育士ら集い

待機児解消・処遇改善めざす

都知事選

2016年7月22日(金)

東京都知事選（31日投票）で、野党統一候補の鳥越俊太郎氏を応援する「ほいくのつどい」（みんなに都政をとりもどす保育の会主催）が20日、都内で開かれ、保育関係者らが、深刻な待機児童の解消や処遇改善に向けて話し合いました。

東京民間保育園経営研究懇話会の八木澤眞理子副会長があいさつし、保育園経営の実態を報告。自身が働く園では人件費率が80%を占め、政府が示す処遇改善策では保育士不足は改善できないとのべ「子どもたち一人ひとりを大切に育てたい思い、大事にする声を東京から上げよう」と呼びかけました。

会場からは保育士らがそれぞれ思いを語りました。中野区内の認可保育園園長の女性（60）は、小泉自公内閣時代に「最小のコストで最大の受け入れ」を推進したことや、都が「公私格差是正制度」を廃止したことが、保育の質の低下と職員の処遇の悪化などを招いたと批判。「規制緩和政策では子どもの命は守れない。保育を良くしたいという思いを鳥越さんに託したい」と話しました。

板橋区の公立保育園で働く女性（54）は「保育予算を増額し、保育士の確保と公立保育園の積極的活用を」、福祉保育労東京地本の小林君江副執行委員長は「鳥越さんには、賃金アップと労働条件の改善を求めたい」とそれぞれ要望を語りました。

福祉保育労東京地本の國米秀明書記長が行動提起し、鳥越氏の政策、信条を押し出す宣伝、法定ビラの配布で、一人でも多くの人に知らせ、投票を呼びかけようと言いました。

日本共産党の大山とも子、都議会民進党の田中朝子、生活者ネットの小松久子各都議らが野党を代表してあいさつしました。



（写真）保育の改善を訴える大山とも子都議＝20日、東京都千代田区